

令和2年度 岩手県教育研究発表会
「いきる・かかわる・そなえる」

震災学習列車活用スクール
～ふるさとを愛する子どもたちのために～

令和3年2月10日
岩泉町立小本小学校
小嶋 友皓

1

岩泉町立小本小学校

- ・漁業や酪農が盛んな街である。
- ・学校の近くには海や川が広がり、自然に囲まれた学校である。
- ・東日本大震災や台風10号豪雨の被害を受けており、度重なる災害に見舞われてきた。
- ・旧小本小学校も津波による浸水被害に遭い、新校舎に移転して5年目。



2

自然豊かな町 小本

伝統芸能『七頭舞・七ツ舞』

『鮭』のふるさと小本川





津波に耐えた小本の松

酪農が盛んな大牛内地区



3

学習のねらい

- ・自分や地域の方々の存在を大切に認め合いながら、郷土のためにたくましく生きていこうとする強い意志をもつ。（生きる）
- ・地域で起こった災害について自分たちで調べ、それを地域や下級生に発信する。（かかわる）
- ・自分の日頃の生活を振り返り、災害に対する備えの重要性について実感する。（そなえる）

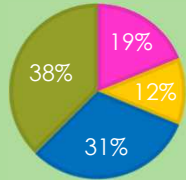
総合的な学習の時間（浜っ子）
「考えよう まちづくりプラン」（20時間）

4

子どもたちの実態（3，4年生）

震災当時、小本の人たちがどんな生活をしていたか知っていますか。

■よく知っている ■少し知っている
■あまり知らない ■ほとんど知らない



津波で前の小学校は浸水したんだよ。
小本温泉は、震災以降営業していないよ。

- ・東日本大震災の年に産まれた子や震災後に産まれた子がほとんどで当時のことはわからないことが多い。
- ・失ったものや変わったものばかりに目がいってしまい、震災に対してマイナスのイメージがついてしまっている。

5

児童の実態を踏まえた学習のゴール

- ①震災を知らない子どもたちが、震災について語り継いでいくことは難しいのではないかな。
- ②震災に対してマイナスのイメージをもったままでは、郷土を愛する心は育たないのではないかな。

（学習のゴール）
自分の地域で起こった震災について理解を深め、災害から力強く復興してきた自分たちのふるさとへの愛着がより深まること

6

浜っ子「考えよう まちづくりプラン」

① 事前学習（5時間）

- ・復興副読本や震災資料室の資料の活用
- ・家族にインタビュー
- ・防災倉庫や防災センターの見学
- ・ゲストティーチャーによる講話
- ・津波から生き残った松に名前をつける活動

震災に対する理解を深めさせたい。

7

浜っ子「考えよう まちづくりプラン」

② 震災列車活用スクール（4時間）

- ・三陸鉄道員による話
- ・防災ガイドによる話

③ 事後学習（11時間）

- ・学習発表会で学んだことを発表
- ・新聞に学習の成果をまとめる

被害の様子や復興状況を直接目で見て学ばせたい。

学んだことを地域や下級生に発信させたい。

8

①事前学習

(1) 復興副読本や震災資料室の資料の活用
本や資料から地震の起こる仕組みや当時の被災状況等について調べた。



(子どもたちの振り返り)

- ・日本には、プレートがたくさんあることがわかりました。
- ・いつ地震が起こるか分からないということを知りました。だから普段から備えておくことが大切だと思いました。
- ・備えることの大切さや地震や津波の怖さを知りました。

地震の起こる仕組みや被害の大きさについてとらえることができた。
全国からたくさんの支援をいただいていることを知った。

9

①事前学習

(2) 家族にインタビュー

震災当時の状況や避難生活の様子、当時の思い出等について家族に聞き取りを行った。

(インタビューをした後の振り返り)

- ・津波は、もう一生来てほしくないです。
- ・電気が通っていないから、怖かったと思います。
- ・多くの家が流され、食べ物もほとんどなかったことがわかりました。
- ・家族以外の人たちが、どんな思いで生活していたのかかわしく知りたいです。
- ・小本以外の地域は、どんな被害があったのか知りたい。

(インタビューでわかったこと)

- その当時、どんな生活をしていたのか。
- ・電気がつかなくなったので、夜はろうそくの日で過ごした。
- ・2ヶ月間、ホテルで暮らしていた。
- ・住んでいた家が流されて、実家に避難した。

小本に住んでいた家族の当時の状況を知ることができた。
また、他の地域はどんな被害があったのかという新たな課題をもつことができた。

10

①事前学習

(3) 防災倉庫や防災センターの見学

校舎4階にある備蓄倉庫や学校の近くにある防災センターを見学した。

防災センター



(見学をした後の振り返り)

- ・あんなにたくさんの物があって、びっくりした。どんな人が避難してきてもいいようにしてあるんだなと思った。
- ・たくさんの物が準備してあった。ほくも自分が必要な物を準備したい。
- ・食べ物だけ準備してあると思ったら、電気や水も蓄えていてびっくりした。

地域で災害についての備えを行っている必要性について学ぶことができた。
また、家庭での準備の大切さについて考えることができた。

11

①事前学習

(4) ゲストティーチャーによる講話

震災を経験された地域の方をゲストティーチャーに迎え、震災時に抱いた思いや震災体験から学んだ教訓について話を聞いた。



(講話を聞いた後の感想)

- ・津波を見る前に、命を守るために逃げるのが大事だということを知った。
- ・元々、海の近くに住んでいた人も海を見るのが嫌になるほど津波は恐ろしいものだということがわかった。
- ・今いる家族が1番大切だという話が心に残りました。

津波の怖さや震災津波を体験した方々の辛さに思いを寄せ、命を守ることの大切さについて学ぶことができた。

12

①事前学習

(5) 津波から生き残った松に
名前をつける活動

町役場復興課からの依頼を受け、小本地区に残る津波被害から生き残った松の名前をつける活動に取り組んだ。



地域の震災について家族で考えるよい機会になった。小本のシンボルを守っていこうとする気持ちが芽生えた。

未来へつなく 希望の松

13

②震災学習列車活用スクール

(1) 三陸鉄道員による説明

三陸鉄道で野田駅から田老駅まで乗車。鉄道員から震災当時の各駅付近の被災状況について説明を聞いた。



(振り返り)

・学んだことを家族や地域の人に伝えたい。
・津波は怖いと思うことは大事だけど、自分の命は自分で守らないといけないからどこか高いところに逃げて、年をとった人の手伝いや自分にできることをしてみてくださいと伝えたい。

海岸の景勝が変わってしまった様子を直接目にし、津波被害の大きさを感じ取ることができた。また、被害を防ぐための工夫について学ぶことができた。

14

②震災学習列車活用スクール

(2) 防災ガイドによる話

田老の学ぶ防災ガイドの方から田老地区の防災の工夫や復興状況について説明を聞く。さらに、震災遺構の田老観光ホテルを見学し、津波の威力や怖さを体感した。



(振り返り)

ホテルでは、6階に社長さんが残って、カメラを回して動画を撮っていたことが心に残りました。理由は、波はもう来ているけど、怖さを伝えたいから残っていたことが、すごいと思いました。

命の大切さについて、再認識することができた。他地域の被害の状況を知ることができた。

15

③事後学習

(1) 学習発表会で学んだことを発表

これまでの防災学習を通して、児童は地域の良さや復興に携わる人々の思いについて触れることができた。そこで学習発表会では、地域の良さにふれた劇を発表した。また、地域の良さを伝える替え歌を自分たちで考え、全校や保護者に向けて発表した。



16

たらしら～小本バージョン

今日もまちを お散歩しよう 始まりは（松の木）
 （つなみにたえた）（小本のシンボル）
 （七頭舞と）（七ツ舞は）（ぼくらの伝統）
 （遠くまで見える）（熊の鼻展望台）
 （川の中に鮭）（熊にかもしか）（たくさんの動物）
 （大牛内）（牧場）の前では（牛）も一休み

たったりりりり 歩けば 心に風いっぱい
 たったりりりら 楽しいな
 このまちが好き このまちが好き
 We love おもと

（日のあたる）（駅前の）（津波の記念碑）
 （みんなを運ぶよ）（三陸鉄道）
 （愛土館で）（駐祭り）みんなをよんでる
 （荒巻き）（さけんぼう）（それにうごはん）
 お腹がすいたら こんなときには とっておきのおやつ
 きみと半分こ 二人で食べよう（小本のくしもち）

たったりりりり 歩けば 楽しいこといっぱい
 きっと今日も見つかるぞ
 このまちが好き このまちが好き
 We love おもと

※（ ）の中の言葉をみんなで考えました。

17

児童の振り返りと保護者の感想

（子どもたちの振り返り）

- ・小本のよいところをおうちの方に伝えることができて良かった。
 - ・歌の歌詞も自分たちで一から考えることができて良かった。
- （保護者の感想）
- ・小本のよいところをよく学習して発表できていたと思います。
 - ・震災について改めて考えることが出来る発表でした。
 - ・学習したことを劇にしている、見る側も勉強になりました。歌もすごく感動しました。

18

③事後学習

（2）新聞に学習の成果をまとめる

学習を通して、知ったことや考えたことを壁新聞にまとめて掲示した。

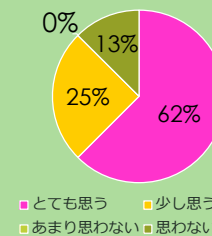
- ・この学習をして、小本にはたくさんのよいところがあることがわかったので、これからもどんどん見つけたいです。
- ・これからは、自分で安全な所や危険な所を見つけたいです。
- ・津波は、怖いけど津波で何があったのか、もっとたくさん調べたいと思いました。



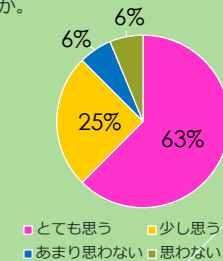
19

学習後の児童のアンケートから

自分の住んでいる地域で起こりうる災害についてイメージできていると思いますか。



震災の教訓や歩みについて、地域の人や将来の家族に伝えたいと思いますか。



20

学習後の児童のアンケートから

・今、自分の住んでいる地域によいところはある
と思いますか。

とても思う 12人 少し思う4人

・今、住んでいる地域にこれからも住み続けたい
と思いますか。

住み続けたい 12人 わからない 4人

- ①東日本大震災で受けた被害の大きさを理解し、「命を守ること・備えることの大切さ」について考えることができた。また、それを広めることもできた。
- ②東日本大震災で失ったものだけでなく、小本の守っていききたいものや伝統を大切にしたいという思いをもつことができた。

21

〈成果〉

- ・津波災害を受けた学区の地域と他地域とを比較しながら津波の様子や復興状況について学ぶことができた。
- ・多くの沿岸地域が津波の被害を受け、防潮堤等、津波襲来に備えた工夫がなされていることを直接目で見て学ぶことができた。
- ・お話を聞いて、災害時、命を守るためにどのように行動すればよいのか、学んだことを伝えたいという思いを深めることができた。
- ・学習を通して、自分たちの住む地域を災害から守り、地域の良さを大切に、受け継いでいこうとする意欲を高めることができた。

22

〈課題〉

- ・今後も地域と連携し、震災について学ぶ学習を継続していきたい。小中で連携し、小学校で学んだことを中学校でさらに発展させたい。
- ・学習の成果を発表した際、情報交流などを通して、さらに学習を深めていきたい。



23

小本の未来を支えていく子どもたち！



郷土を愛する気持ちを大切に、
ふるさと小本のために
頑張る子どもたちに！

ご清聴ありがとうございました。

24